

2013.04.30

「5月8日(水)参議院予算委員会にて外交・安保・TPPについて質問いたします」

こんにちは、参議院議員の西田昌司です。本日は4月30日火曜日です。

本日の予算委員会は中央公聴会になっていますが、連休が明け、5月7日からもう一度審議が始まります。私も5月8日水曜日の参議院の集中審議で久々に質問させていただきます。

今回のテーマは、「外交安保」と「TPP」です。私が今まで警鐘を鳴らしてきた分野について安倍総理に質問致します。これから質問内容をしっかり練って参りますが、問題は「TPP」と「外交安保」は密接に関係していることです。

日本は今、アメリカとの日米安全保障条約が一番大きな外交基軸となっており、それを基に様々な他の国と外交関係を築いています。その中で、日米安全保障条約ができた時は、東西冷戦の最中で、日本が昭和27年4月28日に主権を回復し、独立を果たします。しかし、もう一方で、その日は日米安全保障条約が発行された日でもあります。つまり、独立を回復したと言いながら、実体的にはアメリカ軍がそのまま日本に残るという状態です。そして、この4月28日、東京の憲政記念館で天皇皇后両陛下をお招きし、政府主催で初めて主権回復、そして、国際社会の復帰を記念する式典が行われました。我々自民党が随分前から「主権回復の日を国民の祝日にしたらどうか。」ということを提案してきました。その議連の会長が野田毅衆議院議員であります。野田会長の

下、私も事務局長ということで、この問題に取り組んできました。そして、昨年で丁度、60周年の節目となり、民主党政権下でありましたが、自民党と与党の民主党の方々とも話をし、「とにかく、政府主催の式典をやるのではないか。」と画策してきましたが、残念ながら行えませんでした。そして、今年になって安倍政権が誕生し、ようやくその思いが叶いました。では、60年前は一体どうしていたかといいますと、4月28日については、特に大きな式典がされたという訳ではなかったようです。私が先程申しましたように、この4月28日をもって独立を回復するということになりますが、もう一方で、日米安全保障条約が発行されます。要するに、「アメリカによる占領は終わったけれども、名前を変えた占領は続いているんだ。」と当時の社共勢力が非常に厳しく批判しました。また、沖縄の問題もあります。沖縄、奄美、小笠原といった地域が依然としてアメリカの治世下に置かれています。本土は復帰しましたが、その他の地域は切り捨てられたということもありました。今、この沖縄の問題ばかりが新聞やテレビなどでも取り上げられていますが、当時の一番大きな問題は、日米安全保障条約が日本を事実上の占領下においてしまい、軍事的にはアメリカの支配が続いていくのではないかとということでした。しかし、当時の先人の考えとしては、「まずは自分達が自由に法律を作り、外交を行うために主権を回復しなければ、その他諸々の条件もアメリカと対等に話をすることもできない。また、沖縄、奄美、小笠原の復帰も我々の主権が回復して初

めてアメリカと交渉できる。」ということでこの道を選んだのです。しかし、もう一方で問題になっていたアメリカとの関係はどうなのかといいますと、このことについては甚だ疑問に思うことがあります。つまり、日米関係が重要であることは私も理解しているつもりです。しかし、この当時の日米安全保障条約というのは正に冷戦の最中であり、ソビエト連邦が直接的な敵対国になっていた訳です。ところが、ソビエト連邦自身は冷戦が終わり、ロシアと16の共和国になりました。そして、ロシアとは今、安倍総理がゴールデンウィーク中に訪問し、プーチン大統領と会われ、これから経済関係を深めていきます。また、北方領土の問題解決については両首脳とも前向きに取り組んでいこうと言われています。そもそも、この日米安全保障条約というのはどこを敵国と考えているのかということなのです。そうやってきた時に、必然的に挙げられるのが中国となってきます。一方で、中国が日本にとっても、アメリカにとっても切っても切れない貿易相手国になっています。つまり、この状況の中で考えてみますと、安全保障上の警戒をしなければならないのも事実ですが、アメリカだけではなく、日本も経済的には緊密な関係になっています。そうやってきた時にこの日米安全保障条約で中国に対して、また、「TPP」で中国に対して牽制するというような考え方自身が果たして有効なののでしょうか。むしろ、日本の立場を考えた時に、アメリカと共同して中国を牽制するということができなくなっているのではないのでしょうか。実は中国が一番アメリカの財務証

券を保有しています。今現在の世界一の外貨保有国は日本ではなく、中国であり、ほとんどがアメリカの国債である財務証券です。この意味は、完全にアメリカの財政は中国が担っているということです。アメリカにとっても、無視することも、切ることもできないような、とんでも無い国になってきています。このような複雑な議題です。かつての安全保障条約が出来たような時代とは随分時代背景が変わってきているにもかかわらず、同じような発想で果たして良いのだろうかとは私は疑問を感じています。以上のことを含めて5月8日の予算委員会では安倍総理に様々なことを伺っていきたいと思います。しかし、安倍総理がそういった時代状況の中で「アベノミクス」などで日本の国力を回復しようとしており、民主党政権によって損なわれた外交の信頼関係を取り戻していこうと一生懸命行なっています。私も安倍総理、安倍政権をしっかり支えるという意味で、これから長期的に日本の進むべき方向性というものを議論していきたいと思っています。このゴールデンウィーク中に質問をしっかり練っていきたいと思っていますので、ぜひ皆様方のご注目して頂きたいと思っています。

本日も御覧頂きありがとうございました。